

上の集会で講演したのです。後で木村 剛という海軍中將から感謝のお手紙をいただきました。二十歳ぐ
らいの一介の若者が佐世保市主催の講演・講習会とか、鎮守府で士官以上の集会で講演するなど大変なこ
とでしたが、角大佐が私を信用なさつてのご紹介でした。角大佐は私の大恩人です。

長崎市に私の後援会が組織されました。角大佐が会長となられ、長崎高等商業学校の教授で経済学博士
の田崎仁義先生も会員になっていただきました。二十歳そこそこの私のためにそういう立派な後援会
ができたのです。私は東京に出て行って早稲田大学の創立者、大隈侯爵のところに書生になって住み込
み、東京の様子を調べたうえで立ち上がるつもりでいたのです。しかし角大佐は大隈侯爵ではなく、佐藤
綱次郎中將という陸軍中將に紹介されました。佐藤綱次郎中將といえはその当時は大変有名な、有力な人
でした。角大佐はその中將に私を書生としておいてもらいたいといつてご紹介されたのです。また田崎仁
義先生からは東京高等商業学校長佐野善作先生にご紹介していただいたのです。私はこの二つの紹介状
を持ち、いよいよ東京に出て活動するつもりで勇んで京都の兄のところに行つたのです。ところが残念
ながら兄が賛成しないのです。それで残念ながら東京には行けなかつたのです。二つのご紹介状は今も大
切に保存しています。